



□実施者

◀教員▶ 千葉大学大学院 工学研究科 デザイン文化計画研究室 教授 / 植田憲

◀参加者▶ 千葉大学デザイン文化計画研究室、

2019年度 大学院博士後期課程 9名、前期課程 11名、学部生 3名、研究生 3名、専攻生 2名、交換留学生 1名

2018年度 大学院博士後期課程 4名、前期課程 5名、学部生 2名、研究生 2名

2017年度 大学院博士後期課程 2名、博士前期課程 5名、研究生 6名、交換留学生 1名

◀協働パートナー▶

【行政】 南房総市 市民課市民協働グループ

【企業等】

シラハマ校舎、白浜海洋美術館、ハクダイ食品、鯨料理ぴ〜まん、百姓屋敷じろえむ、道の駅和田浦 wa・ol、三芳生産者グループ、くじら資料館、あべ枇杷園、アルガマリーナ、青倉商店、ごいみ食堂、樋田商店、樋田ガソリンスタンド、花つみの里平左衛門の花畑、はる菜の里畑の八百屋さん、金木商店、ギャラリー SFK、亀や和草、うまや工房、彫金工房富銀（館山市）、夢の花かん、大徳屋等

【市民団体等】 小松寺、彫工の里ふるさと千倉の会、圓蔵院、正福寺、住吉寺、南房総サイクルツーリズム協会、勝善寺、日枝神社等

【個人】 彫工 石井典男氏、石井良輔氏、石井宏明氏、小松寺檀家の方々、釣船昭信丸 山口氏等

背景と目的

(1) 2019年度

ア. 「歴史的造形物」3Dデータ活用PJ

地域の住民が主体となって造形物に触れる機会の創出を目指した。地域の人びとを巻き込み、彫刻の展示やワークショップ実施などを通じて地域資源への関心を高め、それらを活用し、地域の人びとと作り上げていく内発的地域づくりを目的とし、以下を実施した。

4/29～5/1) 小松寺花祭りにおける十二神将色付け体験実施

6/2) 圓蔵院にて地元社寺巡りの事前学習

6/8) 地元社寺巡りのガイド実施

8/10) 千倉駅にて行われる彫刻展示の会場確認

8/13～8/15) 千倉駅にて後藤義光彫刻展示および十二神将色付け体験実施①

8/20～8/23) 千倉駅にて後藤義光彫刻展示および十二神将色付け体験実施②

9/24) 圓蔵院にて台蔵経の3Dデータ取得

10/26) シラハママーケットにてワークショップ開催（十二神将色付け体験）

11/24) 小松寺にて十二神将の仮想再現玩具の展示

11/24) シラハマ校舎での常設展示実施。（歴史的造形物の出力物展示）

12/10～12) 「ちばI・CHI・BA 千葉の魅力を発見する楽しい"市場"」における歴史的造形物の展示

イ. 「万祝」図柄デジタルデータ活用PJ

南房総における万祝の使用実態を把握するとともに、現代における認知向上や活用の方法を模索し持続可能な伝承方法を導出することで地域の中で実行することを目的とし、以下を実施した。

2020/4/26) 南房総市役所にて本プロジェクトの進捗報告

4/29～5/1) 小松寺の花祭りにて本プロジェクトの紹介、万祝グッズおよび万祝のご朱印帳の紹介・販売・5/24 機械彫刻による型紙の使用および活用（鴨川萬祝染鈴染による製品制作）

6/4) 万祝グッズが館山市立博物館ミュージアムグッズとして選定

7/3) 万祝グッズが館山ふるさと納税の返礼品として選定

7/3) シラハマ校舎での展示についての打ち合わせ

7/13) 千倉のお祭りの見学・7/19～21 白間津大祭の参加

8/24) 館山市立博物館にて型紙の取得

9/24) GPS 事業の案内・南房総地域の紹介

10/21) 館山市立博物館にて型紙の取得



1 歴史的造形物の3Dデータを取得の様子
2 歴史的造形物の調査の様子
3 万祝グッズの販売の様子

域学協働の工夫！

- ★とりわけ南房総市役所市民課の方々には、適宜生活者の方々をご紹介いただき、聞き取り調査を実施することができた。デザイン提案もより具体的なものとしてでき、一部は実際に販売・使用していただけるものとなった。
- ★ほぼすべてのプロジェクトを継続的に実施し、毎年度新たなデザイン提案あるいはデザインの更新を行うことによって、協働関係の拡大ならびに深化がなされた。

10/26) シラハマ校舎にてものづくりのWS開催、万祝グッズの紹介・販売

11/3) 南房総・館山ブースでの展示および販売

11/24) シラハマ校舎にて、本プロジェクトの常設展示設置

12/10～12) KITTEにて万祝グッズの紹介・販売

12/15) 千葉大学公開講座での万祝グッズの紹介・販売

12/20) Pscraftとの打ち合わせ / 製品提案

2021/2/16) 館山市立博物館にて型紙を利用したワークショップ開催

2月) 万祝の手ぬぐい制作

2月) 万祝のTシャツ制作

3/7) シラハマ校舎にて型紙を利用したワークショップ開催

ウ. 地域の魅力を伝えるメディア制作PJ（映像）

2018年度の制作物を地域の生活者に活用してもらうとともに、地域資源を活用した試行を地域住民と協働で行うことで、地域資源の価値の再認識を図ることを目的とし、以下を実施した。

2019/6/22) 三芳町、三芳協議会の植栽活動、金比羅山散策、ピワ狩り（食班と合流）

6/28) 三芳町、沢山不動の縁日、亀や、金木商店、金比羅山散策

7/19～7/21) 白間津大祭における現地調査

11/24) シラハマ校舎での常設展示実施（地域カルタや地域からのパッケージ紹介）

2020/1/29) 三芳地区のツナツリについて地域の方からお話を伺った。

エ. ガストロノミーツーリズム

南房総市で暮らす地域住民が当たり前だと感じている食文化を第三者の視点から見ることで魅力を再発見し、地域ごとの異なる特色を地域住民と共有することを目的とし、以下を実施した。

【活動期間】 2019/9/12～2020/3/2、

【実施内容】

- ・感想ノートを用いて「旬のおたより～食のカレンダー～」に関するフィードバックを得る
- ・渡辺農園での整備活動
- ・シラハマ校舎における枇杷の活用紹介および展示
- ・「食のくらし手帳」の制作

(2) 2018年度

ア. 「歴史的造形物」3Dデータ活用PJ

本プロジェクトは南房総市の有する木彫の優良な3Dデータを取得・保存すると共に、その活用を通じて地域の人びとにその再発見・再認識を促し歴史的造形資源の顕在化・共有化に資する3Dデータ活用の指針を導出することを目的とした。実施期間、実施内容は以下のとおりである。

- ・調査で収集した資源と魅力の整理
- ・圓蔵院、正福寺、千倉八幡神社蔵の木彫3Dデータの取得、
- ・3Dデータを活用した木製玩具の提案と制作（トイカプセル、立体パズル、首振り人形）

イ. 「万祝」図柄デジタルデータ活用PJ

南房総における万祝の使用実態を把握するとともに、現代における認知向上や活用の方法を模索し、持続可能な伝承方法を導出することで地域振興を図ることを目的とし、以下を実施した。

- ・生活者への聞き取り調査の実施と整理・館山市立博物館の万祝型紙デジタルデータの取得
- ・万祝図柄を活用したグッズ（万祝ハンカチ、お酒のパッケージ、



4 デザイン提案の一例(南房総の食を伝える「南房総旬のおたより」)

のランプシェード)展開

ウ. 南房総市の風土の特徴に基づくデザインPJ

南房総市の食ならびに、和田浦地域の潜在的な地域資源を再発見・再確認・再認識し、それらに基づく地域振興のためのデザイン提案を行うことを目的とし、以下を実施した。

- ・食に関する聞き取り調査
- ・和田浦駅周辺の踏査と生活者への聞き取り調査
- ・南房総市の食を伝える「旬のおたよりカレンダー」の提案、作成
- ・和田浦の生活を伝えるデザインの提案(和田浦物語コースター等)

エ. 地域の魅力を伝えるメディア制作PJ(三芳サイクルマップ)

潜在化している様々な地域資源の再発見を行うとともに、その特性を活用したガイドマップを作成することによって、地域資源への興味・関心を高め、顕在化、そして共有、理解と再認識に寄与していくことを目的とし、以下を実施した。

- ・三芳地区を中心としたレンタサイクルによる踏査、および生活者への聞き取り調査
- ・南房総地域3市1町に渡る広域サイクルマップの制作への参加
- ・CYCLE MODE international 2018 への出展協力・お散歩・サイクルガイドマップの制作・南房総カルタの制作

(3) 2017年度

ア. 「歴史的造形物」3Dデータ活用PJ

南房総市には先人により維持継承されてきた地域特有の木彫文化が残されている。本プロジェクトはそれらの木彫の優良な3Dデータを取得・保存すると共にさまざまに活用することにより地域の人びとにその再発見・再認識を促すものであり、以下を実施した。

- ・計32件の神社および寺院の有する木彫の特徴についての調査
- ・計12件の木彫の3Dデータの取得
- ・小松寺にて「安房三古寺平安・鎌倉展」と併せて十二神将像レプリカに触れる展示を実施
- ・3Dデータにデフォルメを加えた「トイカプセル」の制作と販売

イ. 「万祝」図柄デジタルデータ活用PJ

南房総における万祝の使用実態を把握するとともに、現代における認知向上や活用方法を模索し、持続可能な伝承方法を導出することで地域振興を図ることを目的とし以下を実施した。

- ・現地での踏査と聞き取り調査
- ・万祝型紙のデジタルデータの取得

・万祝型紙のデジタルデータおよび調査で得られた資源を活用したデザインの制作(クジラの箸袋、郵便局の消印デザイン、農水産物のパッケージデザイン、万祝の着付け体験の提案、漁師道具を利用したものづくり)

ウ. 地域の魅力を伝えるメディア制作PJ(千倉周辺マップ、ドローン映像)

南房総を訪れた人びとが目的地へ行く道中、寄り道をする中で、南房総らしさを感じられるような補助をすることを目的とし、以下を実施した。

- ・現地での踏査と聞き取り調査
- ・ドローンによる南房総市の風景の空撮および映像の編集
- ・調査内容を反映した南房総市の地図(「南房総市全図」)の制作

成果と課題

●地域貢献

歴史的造形物PJにおいては、これまで多数の3Dデータの取得、ならびにそれらを活用した展示の実施や、製品展開などを行ってきた。地域が有している固有の文化、または資源を再発見・再認識し、活用することを狙いとしたデザイン提案を行った。地域資源の再発見・再認識を通して、地域が内発的に活性化される。したがって、地域の魅力をより見やすく、そして伝わりやすい形にすることで地域の活性化が見込まれるといえる。

万祝PJにおいては、これまで館山市立博物館が所蔵する型紙の2Dデータを取得するとともに、白浜海洋美術館、およびかつて使用していた漁師の方々への聞き取りにより、数多くの知見を蓄積してきた。また、デジタルデータを活用した提案の一部は、実際に活用されたり、販売がなされたりするなどの成果につながった。地域が有している固有の文化、または資源を再利用し、地域内外の人びとが再認識することを狙いとたが、その活動を伝えることによって、地域内外の人びとが、地域の魅力を伝わりやすくなり、地域に存在する多くに資源の価値を認めることができ、それが地域の活性化に繋がると考えられる。

地域の魅力を伝えるメディア制作PJにおいては、これまで魅力を伝える地図やサイクルマップ、映像等の制作を行った。これらは、主に地域の踏査ならびに聞き取り調査から得られた情報を反映させたものであり、これまで必ずしも顕在化していなかった情報を記載することができ、新たな地域の魅力を発信するものとなったと考えられた。



5 デザイン提案の一例(南房総カルタ)



6 デザイン提案の一例(三芳サイクルガイドマップ))

●教育・研究面

本プロジェクトは、我々学生の調査及び提案・試作を通して、地域が潜在している固有の文化と資源を地域内外の人々に再認識してもらうことを目的としている。また、この産学官連携プロジェクトに参加することによって、通常大学という閉ざされた環境において学習・研究を行う者である学生が、千葉大学デザイン文化計画研究室の研究理念である「野に出て生活を学ぶ」を実践し、

*表彰・マスコミ掲載など

- ・万祝の型紙のデジタル化ならびにその活用に基づく製品展開を通した地域活性化：郭庚熙、植田憲、日本デザイン学会春季発表大会(名古屋)、デザイン学研究第66回研究発表大会概要集2019、pp.478-479、2019年6月(※JSSD「グッドプレゼンテーション賞」受賞)
- ・歴史的造形物の3Dデータ活用による地域のものづくり支援 -南房総地域における木彫を対象として：高木友貴、青木宏展、植田憲、日本デザイン学会春季研究発表大会(大阪)、デザイン学研究第65回研究発表大会概要集2018、pp.406-407、2018年6月(※JSSDグッドプレゼンテーション賞受賞)
- ・「伝統デザインで箸、サコッシュ 万祝(まいわい)グッズいかが」、千葉日報、2019/7/7
- ・「万祝型紙で遊ぶ!あす館山市博で」、房日新聞、2020/2/15
- ・漁師の伝統的晴れ着「万祝」千葉大生グッズ商品化、毎日新聞、2019/7/29
- ・「万祝の図柄で箸袋デザイン」、房日新聞、2018/6/12